

東京医科大学医学総合研究所・中島利博教授がキルギス共和国特別栄誉賞受賞

～長年のリウマチ熱の克服活動と保健システム構築の功績により～

この度、東京医科大学医学総合研究所の中島利博教授は、キルギス共和国より特別栄誉賞を授与されました。

中島教授は、2006年に初めて同国を訪れて以来、先進国ではほぼ撲滅状態にあるにもかかわらず、中央アジアの各国においてはいまだに子供たちに蔓延する“リウマチ熱”、およびその後遺症による“リウマチ性心疾患”の調査、治療、予防活動の指導にあたっています。全国的な実態調査、高精度検査機器の導入、現地の医師に対する診断・治療方法指導、母子手帳の配布など母親への啓発活動など、保健システム全体の構築支援も行ってきました。

こうした業績により、同国の発展に多大な貢献をした者に贈られる特別栄誉賞を昨年11月3日付けで受賞。12月29日には同国にて授与式があり、Abdullaevich 保健大臣より賞状を授与されました。同賞受賞は日本人では初めてのこととなります。

なお、中島教授は既に2008年より、キルギス共和国より医療分野に関する国家顧問に任命されており、今後も、リウマチ熱の制圧に向け、そして同国の保健システムの強化に向けて活動を続けていく予定です。昨年10月には、キルギス国立心臓病センター内に「キルギス－日本研究センター」※が開設され、研究拠点として、同心臓病センターの医師たちと、中島教授を中心とした日本の各分野の専門家とが協働し、リウマチ熱とその後遺症の克服への取り組みを加速させるものとなっています。

※【参考】<http://www.tokyo-med.ac.jp/151029press%20release.pdf>

以上



左から、キルギス国立心臓病センターナズグル医師、中島教授、Abdullaevich 保健大臣



キルギス共和国特別荣誉賞 賞状